ムハンマドに向けられたクルア ンの予言

:

明:

クルア ンの中では、特にムハンマドに して向けられた、 々な予言が言及されています。そしてこれらの予言は、 言者の教友たちによって きとめられた においてよく されています。

目:事イスラ ムの真 性を示す数々の とふンマドの 言者性に する

目: 事言者ムハンマド彼の 言者性の

より: IslamReligion.com

□ 23 Aug 2010

集日 24 Aug 2010

マッカの大モスク (???????) 城



言者ムハンマドがマッカを追放されてマディ ナヘと移住した6年 、彼はマッカを れて巡 礼をする を ました。このことはクルア ンの中で、次のように言及されています:

ここで神は、3つの 束をしています:

(1) ムハンマドはマッカのハラ ム モスクに入る。

- (2) ムハンマドはそこに安全な状で入る。
- (3) ムハンマドとその教友たちは巡礼を行い、その 礼を完遂する。

当 のマッカの民との 争状 にも わらず、 言者ムハンマドはその教友たちを集め、マッカへの平和的な旅を敢行しました。しかしマッカの民は 行 を けたため、彼らはマディ ナを余 なくされました。彼の はその 点では しませんでしたが、この 言者とマッカ との で大な意 をもたらすことになる、ある重要な 定が取り交わされます。そしてムハンマドがその翌年、教友たちと共に平和 に巡礼を行うことが出来たのは、 にその 定によるものだったのです。こうして彼の は、 を ましぬ。

クルア ンの予言: 「不信仰者らは 北する。」

ムスリムたちはマッカにおいて、不信仰者たちからの しい迫害に晒されていました。 ある は彼らによって村八分にされ、慢性的な食 不足に り、 に しま[B]た。 彼らの 利など考えられないものでしたが、彼らを取り くあらゆる逆境にも わらず神は マッカにてこう予言しているのです:

????????????????????????????????

ここで「ユフザム(北する)」というアラビア の には、未来 制を示す 「サ」が付いています。つまりそれは、将来 されることを示す明らかな予言なのです。そしてそれは言者がマッカからマディ ナへ移住した2年 のラマダ ン月(ヒジュラ の9月)、バドルの役におけるマッカ の 北と撤退という形で します。

言者の逝去 、ムスリムの2代目正 カリフとなったウマルは、このバドルの 役にてその を目にするまで、そのクルア ンの予言がいかに 化するのか知らなかった、と言っていたものでした(サヒ フ アル=ブハ リ)。

クルア ンの予言: 「信仰者たちは政治的 威を 得する」

マッカの民による しい抑 にも わらず、ムスリムは神から以下のようなよい知らせを きました:

抑 され、残忍な仕打ちを受けていたマッカのムスリムに する、全能の神からのそのような 束の は、その当 想像することすら不可能でした。しかしそれにも わらず、その 束は 化したのです。 に、神はムスリムたちに安全を与え、その か数年 に政治的支配 を授けました。

まず、ムスリムたちは神によってマッカからの移住を命じられた 、マディ ナの人々の 招待を受け、そこにおいて彼ら自身の国家を建 しました。それからその国家は 言者ム ハンマドの存命期の内に、アカバ湾からアラビア海南部のアラビア湾まで、全アラビ ア半 を 的に制 したのです。そしてその中には、ムスリムたちが追放された 所であるマ ッカも含まれていました。そしてこの定めは留まることを知らず、ムスリムの政治的 宗教的支配はアラビア半 の外にまで がりました。 史こそは、クルア ンの件の において 予言を受けたムスリムが、ペルシャ帝国と口 マ帝国の土地を支配下に入れたことの、 生き 人です。この出来事は、世界の 史家たちの 愕と を得ました。ブリタニア百科事典 には、以下のようにあります:

「ムハンマドの死 12年 の内に、イスラ ム はシリア、イラク、ペルシャ、エジプト、 そしてキレナイカ (在のリビア) を手中に入れたのです。」[5]

信者とバヌ ナディ ル族に する、クルア ンの予言

神は、クルア ンの中でこう仰っています:

のところ、もし彼らが追放されても、彼らは彼らと共に出て行ったりはしません。そして彼らが攻 されても、彼らのことを助けたりもしませんし、万が一助けようとしても、身を翻して逃亡するのが落ちなのです。こうして、彼らは に 利することなどありません。

この予言は、バヌ ナディ ル族が 元 625年8月にマディ ナから追放された 、 化しました。 そして 信者たちは彼らと共に出て行きもしなければ、援助の手すら差し伸べようとも しなかったのです。[6]

将来的な 峙に するクルア ンの予言

この2つの句が下された 、 にアラビア半 の不信仰者はムスリムに再び 抗することが出来なくなりました。[7]

私たちは、これらの 事において した予言の数々から、ムハンマドの使徒性を中 する多くの者の主 が全くの 根 であることを て取ることが出来ます。彼らは、彼らの批 の基 を、ムハンマド(彼に神の慈悲と祝福あれ)の予言したことと、彼が予告して したことを示すための挑 というところに置きました。[8]

そして彼は明らかに、神の きをもって予言しました。そして明らかに、彼が我々に るよう命じられたものは、 に起こったのです。 って、中 者の尺度によっても、また彼のスンナ(ムハンマドの言行)における彼自身の声明とクルア ンの言 によっても、ムハンマドは神のメッセンジャ であり、遣わされた最 の 言者だったということになるのです。

Footnotes:

[1] これらはハッジにおける、宗教 礼の一部です。

マディ ナ社会」第二 139ペ ジ参照。

マディ ナ社会」第二 37ペ ジ参照。

慈悲」第三 302ペ ジ参照。

- カ ズィ スライマ ン マンス ブ リ 著「全世界への慈悲」第一 212ペ ジ、及びアクラム ディヤ ゥ アル=ウマリ †
- [3] マ ティン リングス著「ムハンマド: 初期文献に基づくその人生」89ペ ジ参照。
- カ ズィ スライマ ン マンス ブ リ 著「全世界への慈悲」第三 299ペ ジ、及びアクラム ディヤ ゥ アル=ウマリ †
- "arts, Islamic." Encyclop dia Britannica from Encyclop dia Britannica Premium Serv (http://www.britannica.com/eb/article-13813)
- マ ティン リングス著「ムハンマド: 初期文献に基づくその人生」204ペ ジ、カ ズィ スライマ ン マンス ブ リ 著
 - [7] サ ミル ギスヤ ン博士著「最 の使徒ムハンマドのメッセ ジ」参照。
- [8] 「あなたは心のうちに『われわれは、その言 が主の言われたものでないと、どうして知り得ようか』と言うであろう

もし 言者があって、主の名によって っても、その言 が成就せず、またその事が起らない は、それは主が られた言、その 言者がほしいままに ったのである。その 言者を恐れるに及ばない。

」(旧 、ニュ アメリカンスタンダ ド版、申命 18: 21-22)。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/384

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。